

公益財団法人 味の素ファンデーション

2024年度 事業計画

2024年4月1日から2025年3月31日まで



2024/3/14

© 2024 The Ajinomoto Foundation

THE
AJINOMOTO
FOUNDATION¹

1. 基本方針
2. 2024年度 全体予算
3. 事務局活動（トピックスと予定）
4. 2024年度目標（2023年度レビュー含む）
 - 1) 被災地復興応援 健康・栄養セミナー事業
 - 2) 低所得国栄養改善事業
（ガーナ栄養改善プロジェクト（GNIP））
 - 3) 食と栄養支援事業（AINプログラム）
 - 4) 低所得国での栄養士育成プロジェクト
（ベトナム栄養制度創設プロジェクト（VINEP））

1. ミッション：トーンとして「～に貢献する」

「食と栄養」関連事業を通じて、世界の国々や地域の発展およびそこで生きる人々の明るい未来の創造に貢献する

2. ビジョン：トーンして、「～となる」

多様な組織連携による新しい価値創造の要となる

3. 行動指針：

- ① 常に公益のために、考え、行動する
- ② 現実を直視し、強い情熱と結果へのこだわりを持ち挑戦する
- ③ 人・歴史・文化を尊重し、寄り添いながらコミュニティの発展を後押しする
- ④ 社会からの信頼を得るため、常に環境適応し、進化し続ける
- ⑤ 事業で得た知見や学術評価の結果を社会に還元する

基本方針（ミッション・ビジョン）

		7つの習慣に基づく概念	TAF内の指針	TAF 行動指針
私 的 成 功	1	主体性を発揮する	① 現実を直視し、強い情熱と結果へのこだわりを持ち挑戦する	●
			② 社会への貢献	
			③ 開拓者精神	
			④ 事業オーナーシップ、担当責任者（ファイナル意識）	
			⑤ インサイドアウト、自律性・実行力（自ら考え、自ら動く）	
			⑥ ルール、規律を把握すること	
	2	目的を持って始める （終わりを思い描くことから始める）	① 常に公益のために、考え・行動する	●
			② 新しい価値の創造	
			③ ミッション・ビジョンに基づく明確な事業計画と行動計画	
3	重要（最優先）事項を優先する	① やるべきことを明確にし、外部のパートナーの力を借りる		
		② 「重要」かつ「緊急ではない」ことに時間を割くことを常に考え後回しにしない		
公 的 成 功	4	Win-Winを考える	① 人・歴史・文化を尊重し、寄り添いながらコミュニティの発展を後押しする	●
			② 社会からの信頼を得るため、常に環境適応し、進化し続ける	●
			③ 事業で得た知見や学術評価の結果を社会に還元する	●
	5	理解に徹し、そして理解される （共感して傾聴する）	④ 人を大切にする（関係者への感謝とリスペクト）	
			⑤ 外部の力と協力し、妥協ではなく最良を導く（周囲のひとたちの巻き込みと協業）	
			⑥ 説明責任を果たすこと	
6	相乗効果（シナジー）を発揮する	① 事業オーナー、担当領域責任者としてのスキルを磨き続ける		
		② 周りからのフィードバックを積極的に受ける		
		③ 4つの側面（肉体、精神、知性、社会・情緒）のブラッシュアップ		
7	刃を研ぐ （何かへの貢献のための武器である自分を磨く）	① メンバーそれぞれがかかわる事業に対して自らの心の声を感じながら取り組む		
8	自分のボイス（内面の声）を発見し、それぞれ自分のボイスを発見できるよう人を奮起させる			

2024年度 基本方針（全体予算）

（単位：円）

項目		2023年度 予算	2023年度 見込み	2024年度 予算
A 公益 目的 事業	被災地復興応援事業	63,080,646	55,718,557	66,539,092
	ガーナ栄養改善プロジェクト	195,478,011	208,023,204	224,398,641
	食と栄養支援事業 (AIN プログラム)	65,262,914	58,360,393	55,741,545
	ベトナム栄養制度創設プロジェクト (VINEP)	27,983,728	21,891,609	12,528,111
B：法人費用		48,942,805	47,250,124	51,058,929
合計		400,748,104	391,243,888	410,266,318

※除減価償却費

2023年度トピックス

1. 評議員会・理事会運営(23/6)

2023年6月に評議員会、理事会を開催。また23年度は、書面決議のほか、12月にハイブリッドによる臨時理事会を開催。

2. 事務局体制の変更(23/7)

2023年7月の異動で、上杉事務局長が、ペルー味の素社へ出向、後任として齋藤氏が事務局長に就任。

3. 新ミッション・ビジョン・行動指針導入(23/4)

⇒HPの改定(23/7)

2023年7月よりTAFのHP改定。内容の刷新を行ったが、特にAINの公募～申請～決定までのプロセスで大きな業務の効率化を図ることができた。

4. 年次合宿の開催 (23/10)

10月12日、13日の2日間でTAF全員参加の合宿を高輪研修センターで実施。新体制での2023年度中間レビュー、2024年度目標の議論を実施した。

5. 内閣府立ち入り検査対応(23/12)

内閣府の立ち入り検査が12月15日に実施された。大きな指摘点はなく、日頃の管理方法に対する承認を得た結果となった。

6. 被災地復興応援事業の変更申請 (23/3～)

長きにわたり、内閣府とのやりとりを実施中。現時点で90%程度内容が固まった状態。内閣府向け申請書類作成において詳細の詰めが残るものの、収束に向けラストスパート

7. 寄付金額の上昇(23年度)

コロナ前水準まで戻った。

2024年度の主な予定

1. 評議員会・理事会の運営 (24/6, 25/3)

2024年6月に評議員会、理事会を開催、2025年3月に理事会を開催する。

2. 人事異動に伴う体制変更への対応(24/7)

人事異動に伴う新規メンバーの底上げ支援を中心に実施する。

3. 年次合宿の開催(24/10)

2024年度の間レビューと2025年度の目標設定の議論のための合宿を行う。

4. 被災地復興応援事業の変更申請完結 (24内)

本申請、承認までの手続きを完了させる。

5. ガバナンスの強化 (常時)

公益財団法人などのセミナー受講により、財団としてのガバナンスを常に強化する。

6. その他 (常時)

週次会議、月次会議、日々の業務フォロー（経費精算など）などのルーティンを通じ、定期的に財団メンバー間のコミュニケーションを促進する。SNS強化や統合も実施する。

公益財団法人 味の素ファンデーション The Ajinomoto Foundation (TAF)

THE
AJINOMOTO
FOUNDATION

HP トップ画面
<https://www.theajinomotofoundation.org/>



- 被災地復興応援事業
- ガーナ栄養改善事業
GNIP / 「KOKO Plus®」
- 「食と栄養」国際支援助成
AIN PROGRAM
- ベトナム栄養制度支援
VINEP
- 財団情報
INFORMATION
- NEWS & JOURNAL
- CONTACT



すべての人の栄養と
食べる幸せに貢献する

1. 事業目的

(1) 地域の**自助・互助力**の向上：

- 1) 住民の心と体の健康リスクの低減、健康寿命の延伸
- 2) 地域の社会関係資本の増強、コミュニティの活性化
- 3) (被災地のみ) ①②を通じた個人と地域におけるより良い復興の実現

(2) **共助・公助力**の向上と、官民連携力の向上：

発災時、被災者への食と栄養支援が重要視され、復興までの長期視点で支援がされる。

- 自助：自分のことを自分ですることに加え、市場サービスの購入も含まれる。
- 互助：相互に支え合っているという意味で「共助」と共通点があるが、費用負担が制度的に裏付けられていない自発的なもの。
- 共助：介護保険などリスクを共有する仲間（被保険者）の負担であり、近隣住民同士の支え合いをいう。社会保障制度に含まれない。
- 公助：税による公の負担。

東北地区での
研修会・講習会 風景

岩手県岩手町
災害時の食支援を考える研修会



※2023年12月13日 盛岡県北新聞

アジア栄養学会議 (ACN Asian Congress of Nutrition) @中国 (成都)

- ・ベストポスターコンペティションにて**ベストポスター賞を受賞**
- ・受賞者：TAF三浦氏（代理発表：東北生活文化大学短期大学部 木下先生）
- ・テーマ：**被災地から生まれた「ありがとうレシピ集」の特徴と活用可能性**



2. 中長期事業戦略

(1) 食と栄養を通じた地域の自助・互助力の向上：

被災地・未被災地を問わず、地域に根差し、食を手段として住民の支援活動を行う組織向けに、たべぷろも含むTAF保有のチエ・ノウハウ・モノの提供で、伴走型の継続した後方支援を行い、支援団体の活動を安定化・活性化させる。

東北エリア、食改・子ども食堂・生協を主なターゲットとし、食を手段として住民支援活動を行う組織向け後方支援を継続。災害時の自助力向上に繋がる新ツール・講習パッケージの活用を開始する。

(2) 食と栄養における共助・公助力の向上、官民連携力アップ事例づくり支援：

赤エプの実績とエビデンス、たべぷろの知見を活かした情報発信で、発災時の食と栄養支援について実行力のある組織を増やし、問題解決に資する仕組み作りを推進する

トライ＆エラー前提に、官民のネットワーク拡充、仕組作りの支援を行い、成功事例作りに貢献する（活動エリアの集中と選択）

3. 2024年度目標

【要約】

1. 食と栄養を通じた地域の自助・互助力の向上

- (1) 地域に根差し、食を手段として住民の支援活動を行う組織の後方支援
- (2) 学術機関と連携した支援活動の評価、まとめようプロジェクトの継続
- (3) 支援者のモチベーション継続支援
- (4) 防災文脈の新講習パッケージ（「どなたときもハンドブック」制作）

2. 食と栄養における共助・公助力の向上、官民連携力アップ事例作り支援

- (1) 官民連携の推進
- (2) 共助実行力と主体性のある支援者（企業、団体、組織）の発掘と連携
- (3) 地区防災計画学会への参入
- (4) たべぷろの継続と実行力向上に繋がる体制構築
- (5) 災害救助法等、法・条例改定の動きへの間接的参画

2023年度レビュー	2024年度目標
<p>1. 食と栄養を通じた地域の自助・互助力の向上</p> <p>(1) 東北における動き</p> <p>1) 料理教室の自主開催</p> <p>4-1月累計54回開催。コロナ影響が減少してきた6月以降増加傾向。TAFによる視察が自走者のモチベーション向上に繋がり、重要性を実感。調理器具の新規協賛案件は2件で、協賛先は積極的に料理教室を開催。赤エプ終了後の自主開催継続団体の再開には課題あり。</p> <p>2) 地域の支援者支援活動</p> <p>講習会・研修会4-1月累積87回実施。目標進捗率145%、年度着地見込 講演会10回+研修会82回=計92回（対年度目標153%）</p> <p>東北エリア以外での依頼は6件（静岡県函南町、八王子市、横浜市） 2023年度は、山形県(36件)まで範囲を拡大。</p>	<p>1. 食と栄養を通じた地域の自助・互助力の向上</p> <p>(1) 地域に根差し、食を手段として住民の支援活動を行う組織の後方支援</p> <p>食改、子供食堂、生協など、エリアは場合によっては東北以外も対応、レシピ集、ホワイトボード、研修会、講演会)</p> <p>(2) 学術機関と連携した支援活動の評価、まとめようプロジェクトの継続</p> <p>自主開催先のエビデンス評価、学会発信など</p> <p>(3) 支援者のモチベーション継続支援</p> <p>自主開催パートナー視察強化、赤エプ自主開催支援</p> <p>(4) 防災文脈の新講習パッケージ（「どんなときもハンドブック」制作</p> <p>どんなときもレシピ講習会の活用開始、食生活改善推進員の全国組織である日本食生活協会との連携</p>

2023年度レビュー	2024年度目標
<p>2. 食と栄養支援における共助・公助力の向上、官民連携による仕組みの啓発</p> <p>(1) まとめようプロジェクト</p> <p>学術機関による研究発表による社会への発信を積極的に実施（日本健康教育学会等）。アジア栄養学会議で『被災地から生まれた「ありがとうレシピ集」の特徴と活用可能性』をテーマにベストポスター賞を受賞。海外からも評価を得て、自信に繋がる成果</p> <p>(2) たべぷろ</p> <p>手引きを活用した啓発活動4-1月累積 20回実施。目標進捗率80%。モノ・人・資金等リソースを豊富に持つ産業界の巻き込みは生団連との連携活動が進行中。都道府県及び市町村でのモデルケース構築への伴走は長野県、千葉県等で進行するもターゲットの明確な選定までは至らず。今後は、啓発活動に注力していく。</p>	<p>2. 食と栄養における共助・公助力の向上、官民連携力アップ事例作り支援</p> <p>(1) 官民連携の推進 地域の官民ネットワーク・仕組作り支援活動、市町村行政に対し、『食の防災の仕組構築進捗チェックリスト』による仕組づくり支援等)</p> <p>(2) 共助実行力と主体性のある支援者（企業、団体、組織）の発掘と連携 重点ターゲット：生団連（→食品関連産業界）、日本財団、生協等</p> <p>(3) 地区防災計画学会への参入（加藤委員と連携）</p> <p>(4) たべぷろの継続と実行力向上に繋がる体制構築 Crops社（防災関連の連携先）との役割分担による運営</p> <p>(5) 災害救助法等、法・条例改定の動きへの間接的参画 「3.11から未来の災害復興制度を提案する会」との連携を検討</p>

能登震災対応



NHKニュース、災害NGO 結



1. 事業目的

地元の食生活に適した栄養食品の研究・開発・製造・販売および栄養に関する知識の普及を通して、対象となる母子の栄養改善を実現し、公共の福祉に貢献する。



GNIP : Ghana Nutrition Improvement Project

2023年度活動

ESM、Yedent、KPF、TAF合同VC会議



フードデモンストレーション



トライシクル営業活動



2024/3/14

低所得国栄養改善事業（ガーナ栄養改善プロジェクト（GNIP））

2023年度活動

NGO販売組織 ESM 営業メンバー



Ike
Sales Coordinator - Ashanti Region

"KOKO Plus" Is your child's peck of daily nutrition.

050 157 6589
WHATSAPP NOW



Richard
Sales Coordinator - Eastern/ Central/Gomoa, Agona, Bono, Ekomoku and Awutu

Always choose "KOKO Plus".

050 152 7927
WHATSAPP NOW



Frank
Sales Coordinator - Accra & Volta

Always Add "KOKO Plus" to your baby's food or porridge.

050 160 9540
WHATSAPP NOW



Prince
Sales Coordinator - Ahafo/ Bono/ Bono East

"KOKO Plus" is good for your baby's healthy growth.

050 157 8056
WHATSAPP NOW



Sly
Sales Coordinator - Northern Belt

KOKO Plus is affordable yet very nutritious.

055 970 1850
WHATSAPP NOW



Prince
GHS Support Staff

From 6 months Use One(1) sachet of KOKO Plus every day.




Felix
Assistant GHS - Coordinator

Let's work together to ensure the good growth of your baby.

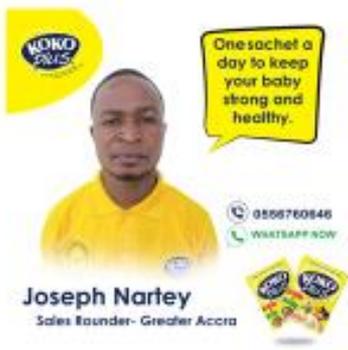
050 152 7928
WHATSAPP NOW



Awudu Ali
Sales Rounder - Bono, Bono East, Ahafo

One sachet a day to keep your baby strong and healthy.

0288752116
WHATSAPP NOW



Joseph Nartey
Sales Rounder - Greater Accra

One sachet a day to keep your baby strong and healthy.

0556760846
WHATSAPP NOW



Awuni
Sales Manager

"KOKO Plus" Good nutrition within reach.

050 152 7923
WHATSAPP NOW



Justine .V. Kpedor
Sales Rounder - Volta-DG

One sachet a day to keep your baby strong and healthy.

0556780647
WHATSAPP NOW



Lucas A. Aditiba
Sales Rounder - Ashanti-KMA

One sachet a day to keep your baby strong and healthy.

0556760852
WHATSAPP NOW

2023年度活動



**For baby's
Brighter future**

2. 中長期事業戦略

- (1) 現地政府、**学術機関との協力**により現地の栄養問題分析、調査研究を行う。
- (2) 上記により開発した製品について、**現地政府機関と企業の官民連携**によって受益者拡大を行う浸透モデルを構築する。
- (3) 現地企業がサステナブルに継続できるICTを活用した**バリューチェーン（生産、物流、販売、浸透活動）**の構築を行う。
- (4) 離乳児から子供向けへの**製品適用範囲の拡大**を行う。併せて他者連携でオープンイノベーションを推進。
- (5) 事業強化・拡大のため、エビデンス構築、PR、ドナー資金獲得のサイクルを回す。



3. 2024年度目標 【要約】

1. マーケティング戦略

「KOKO Plus®」の適用範囲拡大検討、値上げによる粗利確保、デザイン変更、GHS連動のフードデモンストレーション拡大

2. SCM戦略：生販管理強化継続

3. 生産戦略：

製造委託先のレベルアップ（工場5Sの徹底、業務標準化徹底⇒安定生産実現）

4. PR戦略

「KOKO Plus®」の認識レベル向上につながる番組協賛、タレント発掘

5. 組織戦略

ESM（販売NGO）、Yedent（製造委託会社）、KPFの連携とガバナンス強化

6. 中期戦略

エビデンス獲得、ファンド獲得⇒2024年度よりUNDPとの連携（14万ドル）

低所得国栄養改善事業（ガーナ栄養改善プロジェクト（GNIP））

2023年度レビュー

2024年度目標

1. マーケティング戦略

(1) **Product** : 「KOKO Plus®」

(ココ：トウモロコシのお粥 = 離乳食)

(2) **Price(価格)** : 1セディの値上げにより上期はGP率を20%に維持するも、下期に原材料原価増加でGP率低下。

(3) **Place (販売場所・流通経路)**:

1) **都市モデル** :

- ① GHS協働とESM販売の質の向上目的に、エリア拡大を一時停止中。
- ② 保健所周辺での買い場整備（トライアル実施）、直販体制による取扱店舗拡充、営業活動の評価制度を導入した結果、出荷計画は予算よりも大幅に伸長。

2) **ルーラルモデル**: 労力を最小限に抑えつつ、NGOとの連携を継続中。

(4) **Promotion (販促)**

- ① GHS協働とESM販売の活動質向上のため、1地域の保健所で巡回型オリエンテーション実施。回訪店舗数も増加した結果、販売量が増加し、成功例を構築。一方、WFPプロジェクトで50地区の看護師の栄養教育水準の向上を実現。しかし、非対象者には限定的効果。いずれの取り組みも高コストのため、効率的な方法を模索中。
- ② 態度変容サイクルを母親から看護師や小売店まで広げ、関係者のモチベーション維持のための広告やPRアプローチを展開。

1. マーケティング戦略

(1) **Product** 「KOKO Plus®」

1) 貧血予防、2歳以上の子供向に適用範囲拡大検討。

2) プロダクトコピー・包装デザインの見直しを実施。

(2) **Price**

外部要因(CPI・為替・競合)とGP（グロスプロフィット）率を加味し、適切なタイミングでの**値上げ**を随時実施。また、FY30自走化に向けたPL（プロフィット&ロス）構造の見直し。

(3) **Place** :

1) **都市モデル** : 販売体制・ルートの見直し：販売管理システムを活用し営業マンのパフォーマンス改善を更に推進。直販体制を最大活用し、インボイス数増加 = アクティブショップ数増加を目指す。

2) **ルーラルモデル** : 委託先とのコミュニケーションを改善し、限られたリソースでのインパクト最大化を目指す。ルーラルエリア（特に北部）の新たな開拓方法を模索する。

(4) **Promotion**

1) **GHS協働**

看護師が継続的に「KOKO Plus®」を紹介する場となりうる「**Food Demonstration(FD)**」の機会を活用し、GHS協働の成功事例を確立、横展開していく。また、限られた人員でガーナ全土をマネジメントできるよう新KPIを設定し、SBCC（ソーシャルビヘイビアチェンジコミュニケーション）チームの態度変容を促す。

2) **その他** : 現場(販売・GHS協働)と連動した各種マーケティング施策(メディア・SNS)を戦略的に実行する。²²

2023年度レビュー

2. SCM（サプライチェーンマネジメント）戦略

生販の全員が参加する形で根本原因分析を実施し、生販委託先の関係を強化。

(1) 生販会議の定期的実施を開始した結果、適正在庫（2か月）を維持。

(2) サプライヤーとの緊密な連携と監査を実施。複数購買による安定調達検討を開始。

3. 生産戦略

(1) アクションプランの策定と工場内の課題の洗い出しを実施したが、実行に至っていない。

(2) スタッフ育成により在庫、販売、生産の管理プロセスを強化したが、自立化には至っていない。

(3) PLの可視化によりCOGを月次でモニタリングできる状況となったが、予測化までは至っていない。

(4) 品質問題やプレミックスと大豆粉の欠品による生産停止が発生したが、事後対応により、改善した。

4. PR:

(1) WFPプロジェクト：資金を活用しTAFの販売基盤を強化。**看護師5,400人の栄養教育実施**。GHS内での連携強化に繋がり、栄養関連ドナーの会議の正式メンバーとして登録。

(2) ブランド向上：番組スポンサーを開始（**子どもタレント発掘、小売店主向け番組**）

2024/3/14

2024年度目標

2. SCM（サプライチェーンマネジメント）戦略

委託先を含めた生販会議キックオフ。購買、生販計画の管理体制構築。

3. 生産戦略

(1) 委託先の能力強化：トップ間交流、専属マネージャー配置及び能力強化の実施。

(2) 基本活動徹底：技術標準書、SOP（スタンダードオペレーショナルプロセデュア）作成、日報記録の運用遵守。5S推進。

(3) コストダウン、安定調達、COG（コストオブグッズ）の安定に繋がる原料購買施策の実施：複数購買、国内調達の検討。通関時の不確定な税率への対策。委託先との共同調達。

(4) 仕様改定時のルール作成：アセスメント体制の構築

(5) 環境負荷削減

4. PR戦略

(1) ブランド向上：番組へのスポンサー実施（タレント発掘、小売店主向け番組への提供）。「KOKO Plus®」摂取後の子供（現9歳）の探索・活用・タレント発掘。SNS広告実施。

(2) リスク対策：アドバイザー活用等によるGHS（ガーナヘルスサービス）連携の批判防止策の実施。類似品対策。

(3) 国外：受賞、ODA（オフィシャルディベロップメントアシスタンス）の好事例として採用、栄養サミットでの報告によるプレゼンス強化。

2023年度レビュー

5. 組織：

- (1) 事業基盤の構築と人材の教育・育成を実施。棚卸在庫と販売額の理論値が一致。
- (2) 多数の専門家やアドバイザーを保持し、組織の知識やスキルを拡充。
- (3) 組織全体の知見を蓄積。税務署査察、品質問題対応、内部監査等に対応。

6. イノベーション戦略

アフリカ健康構想による3者連携を開始。NECの看護師向けアプリの開始。

2024年度目標

5. 組織戦略

- (1) **ESM（販売NGO）**：NGO法人としてのガバナンス強化の為、定期的なガバナンスチェックを実施。
- (2) **Yedent（生産会社）**：ケネディ・FPCによる委託先スタッフの育成。委託先としての基本活動強化。
- (3) **KPF（※：ガーナの財団）**：1) 委託先内部監査の実施とバリューチェーン全体のKPI（キーパフォーマンスインディケーター）が明確な評価シートの作成。2) アドバイザー・コンサルタントの最大活用。3) AFN（ナイジェリア味の素）との人事交流によるアフリカ法人間の関係促進。4) **青年海外協力隊と一橋のインターン受入れ**による新視点導入。

6. 中期戦略

- (1) **R&D、エビデンス構築**：1) FDの効果検証。2) 母親への栄養教育と「KOKO Plus®」購入経験の相関。3) 3者連携の成果報告。④適正な販売方法・連携先の検討
 - (2) **ファンド獲得**：WFPとのファンド構築、他ファンド獲得機会の獲得。ファンドレイジング・栄養サミットアドボカシーコンサルタントの雇用。GHS外との連携検討（例FAO（フード&アグリカルチャルオーガニゼーション）、農業省の女性活用部門との連携等）
- UNDP（ユナイテッドネイションズ開発プログラム）との契約締結後の取り組み開始**

1. 事業目的

食・栄養・健康に課題を抱える地域の人々を対象に、課題解決に取り組む団体への助成（資金・ノウハウ）を行い、対象者の生活の質の向上を通じて、公益に貢献する。

2. 中長期事業戦略

(1) AIN事業の“**運営プロセスの改善**”

(2) 団体間や専門家を交えたナレッジやノウハウをシェアする“**学びあいの場**”の継続

(3) プラットフォームとなるべく、AIN事務局や委員の“**運営基盤強化**”

(4) 団体活動の成果等の“**情報発信・産官学の連携**”を試みる。

AIN事務局の活動フレームの確認（2023年度作成）

わたしたちは、AIN委員会で食と栄養課題に取り組むNGOの事業を公募審査で採択し、助成金提供により支援します。★★★

それに加えて、AIN委員と共に、

1. ★★★面談・現地視察を行い、進捗確認・タイムリーな助言・課題の発掘・成果の発見を行います。
2. ★学びあいの場（事業計画の具体化、ナレッジシェア、事業完了報告）を設定し、NGOの事業確度の向上、連携・ナレッジ活用、成果の見える化をサポートします。
3. ★学会発表・論文化を支援し、将来の社会システム構築/団体助成金獲得のためのエビデンス化のためのサポートをします。

これらの活動を通じて、NGOの事業が、同じリソースでもよりインパクトの大きな活動となり、少しでも多くの成果が得られるようにNGOを支援します。

（優先度★）



- 1 初期アウトカム：AIN事務局の活動によりNGOの3年間の事業成果を出す*。
- 2 中期アウトカム：NGOによる事業成果の継続&現地のQOL向上*
- 3 長期アウトカム：modelとなって、NGOによる周辺地域・他国への横展開

*副次的な効果 ① マネージャー・人材育成（NGOがなくなっても他の組織で活躍）
② 食と栄養課題解決NGO数が増える

運営プロセス改善

公募申請方法をオンライン申請へ変更。字数制限や添付漏れ防止機能を導入し、事務局の書類チェック等の作業軽減に成功。AINページから申請フォームに移行する“閲覧者”が増加し、より申請しやすいHPに改定された。



HOW TO APPLY
応募要項をみる

ページに現れ、
クリックすると
応募要項に飛ぶ
リンク

FLOW

応募・審査の流れ

応募期間
2023年6月頃～2023年8月31日（木）締切
申請後、3日以内に受審メールをお送り致します。届かない場合は、お問い合わせください。

▼

第一次審査の結果発表
2023年12月末頃までに結果をメールで通知。
通過団体さまには第二次審査（面談）の案内を致します。

▼

第二次審査の結果発表
2024年1月末頃までに結果をメールで通知致します。

▼

応募必要書類データ

Documents required for application

下記より応募要項をダウンロードし、ご確認ください。申請の際は、添付用申請フォーマットは、PDF化が必要です。
Please download and check the application guidelines below. When applying, the attached application format must be converted to PDF.

[応募要項 / application guidelines \(pdf\)](#) [事業体制 / Project Structure \(Word\)](#)

[事業計画書 / Project Plan \(Excel\)](#) [予算計画書 / Budget Plan \(Excel\)](#)

PDFファイルをご覧いただくにはAdobe Readerが必要です。
お持ちでない方は、左のボタンをクリックしてAdobe Readerをダウンロード/無料してください。

事前のご相談も随時お受けしています！ **CLICK!**

[応募する](#) [APPLY IN ENGLISH](#)

APPLICATION FORM

味の素ファンデーション 「食と栄養」国際支援プログラム(AIN)申請書

申請は事業担当責任者が行い、申請者の情報を登録ください。 *印は必須項目です。

申請者基本情報

申請団体名*
日本語40文字以内

申請者*
事業担当責任者名を記入

メールアドレス*
abc@example.com

連絡先電話*
03-5250-7881

1. 申請事業概要

1-1. 事業名*
日本語40文字以内

1-2. 実施国・地域*

1-3. 東京からの行き方*

1-4. 事業の目的*
日本語200文字以内

1-5. 事業の概要*
日本語1000文字以内

2023年度活動

定期面談・現地視察 団体との進捗報告面談（全団体×年2回）および現地視察（2団体）を実施、正確な現状把握とタイムリーな課題の発見・助言が進められた。

2023年8月 地球と友に歩む会（インドネシア東スンバ） 同行：倉島薫理事長



2023年9月 Colorbath（マラウイ） 同行：中村丁次委員



2023年度活動

「学びあいの場」の確立 3つの形態を確立。特にナレッジシェア会は、事務局が各団体の共通する活動や悩みを探し、テーマと参加者を調整し開催。団体からのフィードバックでは、知識の幅が広がった、現地と共有する、早急に実践したい等、実践的な学びとなり、AINの特徴的な一つの支援となりそう。



モリガ知識の深い、過去の支援団体さまにも参加頂いた。

【報告】「学びあいの場～ナレッジシェア会」



■組み合わせ方法の紹介

- ◎：悩み中or参考事例持っている
- ：◎の悩み相談相手になるor参考事例を聞いて刺激もらってほしい

- ・モリガ ◎ハンズ、○アーシャ、ギフト、ダレデモ、ICAN、PLAS、LIFE
- ・チームビルディング ○ICAN、◎LIFE、◎熱田
- ・行政連携 ○シェア、◎ダレデモ、◎ICAN、OHT、OPLAS
- ・口腔衛生 ○ダレデモ、OLIFE、ユメネバ
- ・加工・レシピ開発 ◎ISAPH、ギフト、PLAS、○シェア
- ・啓発活動 ○ユメネバ、◎LIFE、◎アイキャン、◎ダレデモ、◎HANDS、◎ギフト

情報発信

グローバルヘルス合同大会にて
2023年度支援終了のPLAS藤原さんが口頭発表。



支援先一覧（2023）

	実施国	実施団体	プロジェクト名	期間(年度)	23年度助成(百万円)
新規	ブルキナファソ	ADIMA	大豆の学校菜園が結ぶ地域の連携でみんなで守る子供の健康と将来	2023～2025	3.0
	ネパール	(公社法) アジア協会アジアの友	ネパール国立大学との共同による栄養学科学生の栄養専門家育成とキッチンカーによる食生活改善事業	2023～2025	3.0
	インドネシア	(特非)地球の友と歩む会/LIFE	農村部に暮らす村人と子どものための栄養不足改善プロジェクト	2021～2023	3.5
継続	ラオス	(特非) ISAPH (アイサップ)	ラオスの美味しい昆虫食普及プロジェクト ～養殖昆虫のフードシステム構築	2021～2023	3.0
	ガーナ	GIFT (ギフト)	ガーナにおける地元産動物性タンパク質の加工保存による住民の栄養改善	2021～2023	3.2
	スーダン	(特非)ホープフル・タッチ	スーダンにおける学校菜園を通じた子どものライフスキル向上	2021～2023	3.8
	フィリピン	NPO法人DAREDEMO HERO	社会における貧困支援の一環としての栄養教育活動	2022～2024	3.7
	フィリピン	(特非)アイキャン	フィリピン都市貧困地域におけるゲーミフィケーションを活用した食行動改善	2022～2024	3.7
	シエラレオネ	(特非)HANDS	農村部で子どもから地域住民へと育む持続可能な得言う様改善と食糧の安全保障のしくみ作り	2022～2024	3.7
	マラウイ	(特非)Colorbath	妊産婦健診と離乳食の強化を通じた家族全体の栄養改善プロジェクト	2022～2024	3.0

支援先一覧（2024）

	実施国	実施団体	プロジェクト名	期間(年度)	24年度助成(百万円)
新規	ウガンダ共和国	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス	カモジャ地域における持続可能な営農を通じた生計向上と栄養改善プロジェクト	2024~2024	1(3)
	エクアドル共和国	特定非営利活動法人エクアドルの子どものための友人の会	住民と共に開発する学校給食の持続可能な実践モデル	2024~2026	3(9)
	カンボジア	(認定) 特定非営利活動法人 シェア=国際保健協力市民の会	コミュニティで育む5歳未満の子どもの栄養改善プロジェクト	2024~2026	2.9(8.8)
継続	ブルキナファソ	ADIMA	大豆の学校菜園が結ぶ地域の連携でみんなで守る子供の健康と将来	2023~2025	3.0
	ネパール	(公社法) アジア協会アジアの友	ネパール国立大学との共同による栄養学科学学生の栄養専門家育成とキッチンカーによる食生活改善事業	2023~2025	3.0
	スーダン	(特非)ホープフル・タッチ	スーダンにおける学校菜園を通じた子どものライフスキル向上	2021~2023	3.8
	フィリピン	NPO法人DAREDEMO HERO	社会における貧困支援の一環としての栄養教育活動	2022~2024	3.7
	フィリピン	(特非)アイキャン	フィリピン都市貧困地域におけるゲーミフィケーションを活用した食行動改善	2022~2024	3.7
	シエラレオネ	(特非)HANDS	農村部で子どもから地域住民へと育む持続可能な得言う様改善と食糧の安全保障のしくみ作り	2022~2024	3.7
	マラウイ	(特非)Colorbath	妊産婦健診と離乳食の強化を通じた家族全体の栄養改善プロジェクト	2022~2024	3.0

2023年度レビュー

1. AIN長期レビュー(1999-2022年度)

特長：1999年より、長きに渡り「食を通じた栄養改善をテーマ」として、団体の実践活動を助成することで、現地のサステナブルな仕組み作りを支援し、20ヶ国以上の地域の受益者に貢献してきた実績と信頼をもつ、他に類を見ないプログラムである。現地視察や専門家である委員の助言を通じて、団体及び現地の状況に、柔軟に対応をし、団体の成果創出のために並走する特長をもつ。**2024年に25周年**を迎える。

2. AIN単年レビュー(2023年度)

「専門家や団体間を取りつなぐコーディネーションに注力し、より一層の団体の成果創出のための支援を行う」ことを基本方針とした。

(1) 運営プロセス改善 HPの改定と共に、公募申請方法をオンライン申請へ変更。字数制限や添付漏れ防止機能を導入し、事務局の書類チェック等の作業軽減に成功した。AINページから申請フォームに移行する閲覧者が増加し、より申請しやすいHPに改定できた。

(2) 定期面談・現地視察 団体との進捗報告面談（全団体、年2回）および現地視察（2団体）を実施、正確な現状把握とタイムリーな課題の発見・助言が進められた。

2024年度目標

1. 団体支援の強化

(1) 情報共有・現場接点

1) 定期面談（年2回）

中間報告会、年度報告会、完了団体のみ完了報告会

2) 現地視察

アジア友の会(FY23開始)、新規団体等

3) 学びあいの場（年3回）

年度報告会を通して、テーマ探し、団体マッチングを行う

(2) 新規の委員採用

24/01以降、事務局が順次面談し、委員適正（AINへの興味・関わり度）を優先的に評価し、新委員の選定・就任依頼の手順を進める。

2023年度レビュー

(3) 「学びあいの場」の確立

1) 事業計画ブラッシュアップ(23/03)

23年度支援開始2団体の事業計画に関して、課題修正・計画が具体化された。

2) ナレッジシェア会(23/06)

テーマ（モリング / 活用チームビルディング行政連携 / 口腔衛生 / 加工・レシピ開発・啓発活動、ファシリテート等）

3) 完了報告会および公募説明会

22年度事業完了2団体の報告に対して調査結果の整理など、成果の見える化を支援。説明会に関して、沢山の参加者から質問を頂き、AINについての理解が深まった。また事前相談も増加し、AINの認知が促進された。

4) 情報発信

3団体の学会発表・投稿支援し、団体の活動の学会発表により、食と栄養の実践活動のPR・エビデンス化に寄与している。

5) その他

円安・物価高進行で、一部NGOに一時的な追加助成を実施・活動継続・成果に繋げた。

2024年度目標

3. 運営の強化

(1) 応募要項の見直し

具体的に、地域性、危険リスク地域、難民支援、チャリティ支援、過去支援団体、他の助成との連携等。公募要項見直しは、2024/4-5頃実施。

(2) 海外渡航リスク管理の整備

海外渡航時のリスク管理の整備・文書化、委員渡航時の同意書・事前確認書の整備

(3) 過去の支援事業の調査（25周年）

1999年～2023年の過去の事業計画書および事業完了報告書を整理し、事業の成功のエッセンスを抽出できるかどうかなどの分析を行う。

4. 情報発信と連携

学会発表・論文化への働きかけ・支援を継続する。HPのGA計測レポートに基づいて、AIN事務局の各種活動と公募申請との関連等の分析を行い、運営の改善につなげる。

インターン受け入れ経験のある団体に制度・運営について聞き取り、検討開始する。



1. 事業目的

国家戦略に基づき、栄養の正しい知識・行動を伝える栄養人材（管理栄養士など）が育成され、社会で活躍できるような場と制度が構築され、国民の健康状態が向上されるという目標達成を目指すベトナムの国家機関の運営を費用/ノウハウ面で支援する。

2. 中長期事業戦略（達成するためのスキーム） ⇒ **今までのものを掲載**

ベトナムの国家機関および日本の栄養専門家とコラボレートしながら、臨床栄養ではNSTのモデル病院を確立する。学校栄養では小学校で体系的な栄養教育体制を確立する。NINとともに共催するVINEPワークショップでは、各活動をベトナムの行政・病院・学校にPRし、栄養制度創設を働きかける。これらの活動を通じて、栄養士の配置が促進されること、将来的な国民の栄養リテラシーおよび栄養状態の向上を達成する。

VINEP : Vietnam Nutrition System Establishment Project

低所得国での栄養士育成プロジェクト (ベトナム栄養制度創設プロジェクト (VINEP))

MEV-MEJ Forum (23年6月26-27日、バクマイ病院) でVINEPの取り組みを日越医療関係者・保健省に向けて発表



(左上から時計回りに) ①発表する新開、②発表するDr.Huy (当時NIN)、③保健省Dr.Khue (懇親会)、④保健省アドバイザー正林氏 (懇親会)

低所得国での栄養士育成プロジェクト (ベトナム栄養制度創設プロジェクト (VINEP))



日越外交関係樹立50周年記念 VINEP workshop (23年10月18および20日、国立栄養研究所NIN) でVINEPの取り組み(臨床・学校)をベトナム栄養士・保健省・教育訓練省・病院・大学・学校関係者に向けて発表



(左上から時計回り) 倉島理事長、中村先生、山本先生、野間先生(岡山大学病院)、犬飼先生(岡山済生会病院)、水野先生(京都大学病院)

低所得国での栄養士育成プロジェクト (ベトナム栄養制度創設プロジェクト (VINEP))



日越外交関係樹立50周年記念 VINEP workshop (23年10月18および20日、国立栄養研究所NIN) でVINEPの取り組み(臨床・学校)をベトナム栄養士・保健省・教育訓練省・病院・大学・学校関係者に向けて発表



(左上から時計回りに) 小島先生(新潟県立大学)、齊藤先生(新潟市立桃山小学校)、ベトナム味の素Trung氏、ベトナム国立教育科学研究所訪問:小島先生、齊藤先生、佐々木書記官E病院訪問:中村先生、水野先生、佐々木書記官、ベトナム味の素の営業現場見学・オフィス訪問

2. 2024年度基本方針

(1)臨床栄養

23年度の活動で、E病院とKUHP（京都大学病院）の間で計画していたNST（ニュートリションサポートチーム）研修は、E病院の要望がVINEPの事業目的に合致しなかったため実施しない。同時に、HMU（ハノイ医大）卒業生8人がK病院の栄養管理の中心メンバーとして活躍しているというVINEPの成果が確認できた。将来、K病院が模範となり、そこに勤務する栄養士が臨床栄養のリーダーとなることが期待される。これまでのVINEPの成果により自立化の見込みが立ったので、**臨床栄養領域の活動は終了する。**

(2)学校栄養

- 1) 23年度の活動で、MOET（教育科学省）/MOH（保健省）/NIN（栄養研究所）の認可の下、AVN（ベトナム味の素）のSMP実施を確認できた。直接的な支援は不要と判断し、**VINEPは学校給食領域の活動を行わない。**
- 2) 学校における栄養教育の必要性を理解したMOET（教育科学省）/VNIES（教育科学院）が、体育のカリキュラムに日本式の栄養教育を入れる試みとしてSNP（スクールニュートリションプロジェクト）が実施された。SNPの結果に基づいて、学校栄養教育の重要性の理解を促進・拡大するためのエビデンス作りを支援する。
- 3) **栄養教育の指導書作成:** 日本式の栄養教育を小学校に導入するSNP（VNIES<教育科学院>/UNP<新潟県立大学>）の取り組みを加速するため、**初期段階限定の支援**を検討。

(3)NINとの関係

VINEP活動について、2023年10月に棚卸のWorkshopを実施し、現場での成果も出始めていること、ベトナム行政側も独自の動きを開始していることから、**2025年でNINとのSA（スポンサー契約）を終了する。**

3. 2024年度目標 【要約】

1. 臨床栄養

武庫川女子大・弊教授と委託研究契約を締結(途上国へのNST(ニュートリションサポートチーム)導入・運営にあたっての必要条件の検討)

2. 学校栄養

(1) SNP（スクールニュートリションプロジェクト）の論文化

(2) 栄養教育の指導書作成

TAFの役割（共通認識を作るための場の設定と事業費提供）

3. NIN（栄養研究所）との関係

TAFとNINを中心とした契約をいったん終了する。

※2024年度中にVINEPの今後のあり方決定のための検討を行う。

2023年度レビュー

VINEPI-III :

1. VINEPの活動成果

(1) HMU (ハノイ医科大) 栄養学学士課程開講 (2013)

(2) 栄養士のジョブコード承認 (2015)

(3) 保健大臣通達「2025年までに病院に100床に栄養士または栄養専門家 1名を配置する」発出 (2020)。

ハノイ医大
栄養学科
卒業式



2024年度目標

1. 臨床栄養

武庫川女子大・幣教授と委託研究契約を締結する (24/02-25/03、研究経費：約50万円)。

(1) 研究課題

途上国へのNST(ニュートリションサポートチーム)導入・運営にあたっての必要条件の検討

(2) 研究目的・内容

ベトナム・ハノイにおいてNSTの実現に成功しているK病院と実現が困難なE病院の事例から、その差異や障壁を明確にして途上国でのNST導入・運営を行うための必要な条件を明らかにする。

2023年度レビュー

2. VINEPIV :

1) NINとSA (スポンサー契約) 締結 (22/03) ●

2) 50周年記念Workshop開催 (23/10) ●

NIN (栄養研究所) とTAFで日越の専門家が一堂に会しVINEPの過去の成果を確認、称えあい、臨床・学校栄養の現状把握と将来に向け議論した (23/10)

3) VNIESがによるSNP(スクールニュートリションプロジェクト)▲

UNP指導下で、日本式の栄養教育を小学校に導入するSNP実施

4) ICN2022 VINEP Symposium (22/12)●

5) 小学校の栄養教育の指導書作成WG開始 (UNP-VNIES) ▲

体系的な栄養教育体制を確立することを目的に。日越カリキュラムreview実施(23/6-)。

6) ベトナムE病院栄養士がKUHPでNST研修準備×準備を進めてきたが研修目的の不一致で計画中止

7) 第2回MEV-MEJ (※) Forum(23/6)●

VINEPの内容を発表。在越日本大使館・佐々木書記官/保健省アドバイザー・正林氏との現地邦人専門家との情報交換によりVINEP方針決定の確度が高まった。

※Medical Excellence Japan

Medical Excellence Vietnam

2024/3/14

2024年度目標

2. 学校栄養

(1) SNP (スクールニュートリションプロジェクト) の論文化

1) VNIES (教育科学院) /UNP (新潟県立大学) が論文化を予定。

2) 論文化のための資料 (VNIES/NIN<栄養研究所>より入手した2つの報告書・生データ) の共有化・理解・結果の統計解析等の作業をVNIES/UNP間で実施。

3) TAFは、VNIES/UNP間の共通認識醸成のための調整を行い、後方支援を行う (通訳・資料翻訳費等) 。

(2) 栄養教育の指導書作成

TAFの役割

◆ 共通認識を作るための場の設定

◆ 事業費提供

1) VNIES/UNPの意思確認

2) SNPの論文化に向け、VNIES/UNPの自律性と意志をに確認、実施可否判断を行う。

3) 実施の場合：第1ステップ (指導書第1案作成) に限定して支援。TAF/VNIES関係者がUNPの小学校栄養教育現場を視察し、ベトナムへの適用可否を判断する。適用可能な場合：VNIES/UNP間で適切な目標設定の上、事業費支援を最大400万円程度で実施する。

43

2023年度レビュー

2024年度目標

3. NINとの関係

NINとの間のSA (22/03-25/03) を中止する。
今後もNINとの良好な関係を維持していくことに留意しながらSAを終了する。